

氏名	田 中 淳太郎		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1867 号		
学位授与の日付	昭和62年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	慢性膵炎の膵管X線像とその診断学的価値 — 屍体膵を用いての研究 —		
論文審査委員	教授 辻 孝夫	教授 太田善介	教授 青野 要

学位論文内容の要旨

慢性膵炎25例，膵癌12例，および対照として正常膵125例，計162例の新鮮剖検膵を用いて逆行性膵管造影を行い，そのX線所見と同部位の組織所見とを対比させ，慢性膵炎に特徴的なX線所見，各X線所見と組織学的所見との対応，および慢性膵炎における各X線所見の診断的価値を検討し，以下の結論を得た。

- 1) 膵管造影所見のなかでは分枝像における不整拡張像，不整配列像，および主膵管像における不整拡張像，硬化+辺縁不整像，狭窄+辺縁不整像が positive predictive value ， negative predictive value および sensitivity ， specificity において最も優れた診断的価値の高いX線像である。しかし，組織像との1対1の対応でみると sensitivity は十分とはいえず，慢性膵炎の組織所見が存在する部位でもこれらのX線所見が認められない場合も少なくないので注意を要する。その他のX線所見は組織所見との対応性がさらに低い。
- 2) 膵癌との鑑別においては，単なる狭窄像は慢性膵炎を，狭窄像に辺縁不整像が合併する場合には膵癌をより強く示唆する。また，硬化+直線化像は慢性膵炎を，乏分枝像は膵癌をより強く示唆する。

論文審査の結果の要旨

本研究は屍体膵を用いて慢性膵炎の膵管X線像とその診断的価値に関して研究したものであるが，慢性膵炎の組織像が存在する部位でもX線所見が認められない場合もあること，また，硬化と直線化像は慢性膵炎の診断所見として，さらに乏分枝像は膵癌をより強く示唆するなど重要な所見を得たものと認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。